

第89の山登頂記

随分秋めいて来ました。こちら周辺は、稲刈りがすっかり終わり、それと前後して、異常気象があらうと政党の代表選挙があらうと頓着なく、この時期になったと知らせているように、今年もきちんと彼岸花が咲き誇っています。

その後、皆様、お元気にお過ごしでしょうか。

当初予定の9月30日大分・由布岳登山を変更し、10月1日、そのすぐ近くの倉木山（標高1160M）に登ってきました。

地元山の会では、3年前由布岳登山を行っているが、当方は都合により不参加。天気の良い日などは、こちら山口県からも海越しにこの名だたるこの山が見えるので、一度は登ってみたいと再挑戦を依頼していた。そのせいか、会ではひと月ほど前、1泊2日のこの山への登山を計画。

その実施日前は、連日晴天続きであったが、台風14号の影響で9月30日当日は雨。宿の予約もあり、取りあえず、全員（9人）集合時間（早朝5時）に公民館に集合。台風が東に逸れており、天候も変わるかもとも思われ、目的地の登山口到着時にどのような様子か見て登山実施を判断することで、2台の車に分乗し出発。道中、強さの違いはあったが、雨模様は変わらず、結局、その日の登山は中止。まだ宿のチェックインには早く、観光地視察へ。当方の提案で、少し距離はあるが、南に下って竹田市にある国の重要文化財「白水ダム」に行くことになった。登山口よりダムまで車で約2時間、着いた時には雨は上がっていた。

このダムは、地域の水量不足対策のため、当時の大分県農業土木技師・小野安夫氏の設計・監督により1938年（昭和13年）に竣工したダム。ダムの堰堤越しに水が流れるが、堰堤の両端は、ダムの形状により片側は武者返しの流れ、もう一方は階段状の流れで、水流が得も言われぬ美しさを呈す（※4905。流れの躍動感あふれる様子をビデオ撮影しているが皆さんに送れないのは残念）。一節には、日本一美しいダムと称されている。今回訪問者の殆どが初めての出会いで、その美しさに驚嘆していた。お勧め感動ポイントです。機会があれば一度ご訪問下さい。

宿に帰って、早目のチェックイン。夕食まで少し時間があり、宿が湯布院の中だったので、何人かは湯布院観光。観光地でよく見かける人力車が行き交うなか、例の金鱗湖や有名なせんべい屋さんや漬物屋さんを巡回。お土産に「ぬれおかき（要は、やわらかなおかき）」と「丸ごと沢庵漬け」を、締めて770円でゲット。小一時間の視察完了。宿の露天風呂に浸かり、広間で夕食。当初の登山計画では、由布岳班と倉木山班の、2班に分かれての登山の予定であったが、帰りの都合もあり、結局、今回は全員倉木山登山することとなった。登山前日（今日）も早朝出発、翌日（明日）も早めの出発のせいもあり、特殊飲み物も幾分控え、全員早めに就寝。

翌日、朝食後、それぞれに宿で準備してもらったお弁当をリュックに入れて宿を辞し、やまなみハイウェイ沿いの由布岳登山口へ（ここで標高約700M）。途中、展望場所の狭霧台では、昨日と違って晴天の中に立つ由布岳を見上げ（※5208）、振りかえって後方の湯布院の町を眺める。

それぞれに登山装備と軽い体操を済ませ、倉木山登山口を目指して舗装道（やまなみハイウェイ）を西へ10分程歩く。振りかえると車の道やその向こうの土手のすすき越しに晴天下に映える由布岳が見える。小さい（葉書大の）「倉木山&雨乞い岳→」の標識のところで、国道を逸れ、更に舗装の一般道を、次いで牧場脇の登山口への道を進む。道のわきには白、黄、青等々色々な色の小さく可愛く咲く花々（例※5235。残念ながら殆ど名前が解らない）。30分位は歩いたでしょうか、やっと倉木山登山口の標識に出会う。途中で見上げた空の雲は、既に秋の様子（※5239）。これも名前が解らないが、真っ赤な実を付けた木もあった。なだらかな道を歩いて来て、稼いだ標高は僅か50M程度。らくちん、らくちん。

登山口からまもなく、小高くなっている処に、「左急直登」と「右山腹廻り」の分岐標識。誰かが、当然の如く「山腹廻り」を選定。足元にはがれきの小石こそあちこちにあるが、道幅もほどほど、落ち葉の軽いクッション、傾斜は緩やか、と一言でいくだけでも歩けそうな感じ。ルンルンで歩く（※5255）。廻りは雑木に覆われ、高度も1000Mちかいせいか、やや冷たい風があり、汗の感じが無い。むしろマフラー代わりにタオルを首に巻いた。時折、道脇の木がまばらになり、由布岳を望める。頂上まで1.5KMとか、1KMとかの表示板があるが苦もなく過ぎる。気の早い紅葉の落ち葉にも出会う。虎の尾のような白い花も咲いていた。倉木山頂まで10分の標識あり。すぐに、頂上500Mの標識も。ここから急な登りとなる。ここでも黄色や紫や白や色々の草花に出会う。前方で道脇の木が途絶え、上方に明るい空が見えて来た。頂上も近い。急登を終わったが、頂上まではもう少しおまけの道があった。途中標識の「頂上まで10分」は間違い、特に我がグループでは。由布岳登山口の歩き始めが8時15分頃で、頂上到着が11時頃。標高差約400Mを3時間近くも掛けたことになる（この標高差、昔は1時間で軽くクリアー出来たのに）。

頂上からは360度眺望可で、北方の由布岳はもちろんその東側の鶴見岳や、少し霞んではいるが、その先の別府湾も見える。その他の方向も山また山。少し早い、頂上でランチタイムスタート。アサヒスーパードライ350CCX2本を分けて口を潤し、宿手配の弁当で全員揃って昼食。持参のコーヒーも。

1時間以上もゆっくりし、元来た道を辿る下山開始。途中で見える由布岳は、頂上付近に雲が近寄ったりして、朝程の快晴では無い。下りは少々早いペースで、1時間ほどで登山口へ。

地元・山口への帰りは、途中の道の駅で小休止して、18時頃に公民館に到着。

本命の由布岳登山はまた挑戦するとして、今回の倉木山は、草花も多く、道も良く、傾斜のきついのは最後だけで、全体的にルンルンの登山でした。歩行数は、17573歩と多目。

山口／古賀



